

世田谷区のあらまし

(世田谷区政概要 2021 より一部抜粋)

区の紋章、区の鳥・花・樹

区の紋章

区の紋章は、昭和31年の大東京祭を記念して紋章図案を募集し、その結果、当時上馬一丁目在住の故高山節子さんの作品が選ばれ、昭和31年10月1日に制定された。

外輪の円は区内の平和、中心は「世」の文字が三方に広がり、人々の協力と区の発展を意味している。



区の鳥・花・樹

昭和43年6月、東京100年を記念して、区の象徴とするのにふさわしい、区民に親しまれる鳥、花、樹を公募した。応募内容について、各分野の専門家の意見を基に選考した結果、鳥は「オナガ」、花は「サギソウ」、樹は「ケヤキ」にそれぞれ決定し、同年9月に制定した。

オナガ

東部イベリア、中国、日本などに広く分布しているが、日本では特に関東平野に多い鳥。人家近くの疎林に小群をなして棲んでいる。頭が黒く名前のように長い尾は淡青、体全体は灰色がかった水色で、木立の間を飛びまわる姿は、とても印象的である。繁殖期5～7月。雑食性。カラス科。



オナガ

サギソウ

白い3cmほどの花形が白鷺そっくりのラン科の多年生草木。奥沢鷺の谷（現在の九品仏付近）には、この花にまつわる言い伝えや哀しい伝説が残っている。



サギソウ

ケヤキ

区内各所に見られる幹の太い、まっすぐな大木。こずえがほうき状に繁茂し、4～5月ごろ新芽と同時に淡黄緑色の小さい花をつける。大木であり、広い板面が得られるところから、お寺や神社などの建築材によく使われている。葉を落としたけやきが冬空へそびえている姿には雄大な風格と美しさがある。



ケヤキ

人口と世帯

令和4年1月1日現在の住民基本台帳によると、人口916,208人、世帯数489,372世帯である(表1)。

人口は大正から急激な勢いで増加し、昭和50年代に入ると横ばいとなったが、平成8年以降緩やかに増えている(表2)。

表1 人口・世帯数(住民基本台帳による) (令和4年1月1日現在)

地域	世帯数(世帯)	人口(人)			面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
		総数	男	女		
区内全域	489,372	916,208	433,723	482,485	58.049	15,783
世田谷地域	143,110	252,554	119,314	133,240	12.324	20,493
北沢地域	89,790	153,086	73,268	79,818	8.652	17,694
玉川地域	113,832	225,845	105,070	120,775	15.809	14,286
砧地域	78,418	164,235	78,602	85,633	13.549	12,122
烏山地域	64,222	120,488	57,469	63,019	7.715	15,617

表2 人口の推移

(各年1月1日現在、ただし人口調査によるものは11月1日、国勢調査によるものは各年10月1日現在)

年次	世帯数(世帯)	人口(人)			備考	外国人登録人口(人)
		総数	男	女		
大正9年	6,670	39,952	22,100	17,852	国勢調査	-
14	18,091	87,965	47,120	40,845	〃	-
昭和5年	32,634	149,323	78,623	70,700	〃	-
10	42,515	210,701	107,041	103,660	〃	-
15	58,075	281,804	141,241	140,563	〃	-
20	-	276,450	138,152	138,298	人口調査	-
25	101,798	398,990	-	-	食糧配給台帳	-
30	128,611	510,270	258,582	251,688	住民登録	-
35	168,851	615,738	313,695	302,043	〃	3,929
40	230,329	699,128	353,775	345,353	〃	4,662
45	276,118	748,634	378,056	370,578	住民基本台帳	5,326
50	301,956	765,205	382,013	383,192	〃	5,906
55	318,623	770,818	383,553	387,265	〃	6,241
60	342,460	783,724	391,489	392,235	〃	7,532
平成2年	356,314	776,385	386,175	390,210	〃	10,490
7	364,208	762,007	371,443	390,564	〃	13,752
12	388,875	779,974	376,534	403,440	〃	13,586
17	412,980	804,730	386,326	418,404	〃	14,587
22	432,941	831,654	397,914	433,740	〃	16,026
27	455,473 (447,270)	874,332 (858,639)	416,360 (408,335)	457,972 (450,304)	〃	-
30	473,163 (461,908)	900,107 (880,176)	427,184 (416,973)	472,923 (463,203)	〃	-
31	479,792 (462,608)	908,907 (887,528)	431,026 (420,205)	477,881 (467,323)	〃	-
令和2年	487,174 (473,484)	917,486 (894,452)	434,897 (423,263)	482,589 (471,189)	〃	-
3	490,342 (477,553)	920,372 (898,208)	436,042 (424,778)	484,330 (473,430)	〃	-
4	489,372 (477,615)	916,208 (895,180)	433,723 (422,962)	482,485 (472,218)	〃	-

(注1) 大正9年から昭和10年までの数値は、合併前の千歳村、砧村の数値を含む。
(注2) 昭和5、10年の世帯数は、昭和10年版東京市統計年表による。
(注3) 住民基本台帳法の一部改正(平成24年7月9日)により外国人登録制度が廃止され、平成27年以降の世帯数と人口には、外国人の数値も含まれている。
(注4) 平成27年以降の()内は、経年比較の為に、世帯数は外国人のみ世帯を除いた数値を、人口は日本人のみの数値を掲載している。

区の歴史

生い立ち

世田谷の遺跡

世田谷区は区内でも有数の遺跡密集地であり、その分布は区内のほぼ全域におよぶ。時代的には約3万5千年前の石器製作跡から近世の大名陣屋に至るまで、ほぼ全時代を網羅している。特に水利に恵まれた多摩川沿いの国分寺崖線上は居住するのに適していたとみえ、多くの遺跡が確認されている。

世田谷の代表的遺跡・遺構としては、瀬田遺跡・下山遺跡・嘉留多遺跡の石器製作跡（旧石器時代）、瀬田遺跡の貝塚、諏訪山・桜木遺跡の集落（縄文時代）、堂ヶ谷戸遺跡の環濠集落（弥生時代）、野毛大塚古墳・喜多見稻荷塚古墳（古墳時代）、下山遺跡の火葬墓（奈良・平安時代）、世田谷城跡、奥沢城跡（戦国時代）、喜多見氏陣屋跡（江戸時代）などが挙げられる。

江戸氏と木田見郷

武蔵国木田見郷（現喜多見一帯）が鎌倉時代から江戸氏一族・木田見氏の領地であったことは、「熊谷家文書」により明らかである。『一谷嫩軍記』で有名な熊谷直実の家に代々伝わる「熊谷家文書」には、木田見成念の子孫たちが木田見郷の領地を巡って熊谷氏との間に起こした相論に関する文書が含まれている。その初見は文永11年（1274）のものであり、これが区内における土地領有関係を示す最も古い文書となっている。江戸時代に、2万石の大名にまでなった喜多見氏は本来、木田見氏とは別の家であったが、室町時代に千束郷内より喜多見の地へ移住してきたものと考えられる。

世田谷吉良氏

吉良氏は清和源氏・足利氏の支族で、三河国幡豆郡吉良庄より起こった。世田谷吉良氏はその庶流で、足利義継を祖とし、その子・経氏の時、吉良姓を名乗ったと伝えられる。経氏の孫・貞家は建武政権・室町幕府の要職を歴任した後、奥州探題となつて陸奥国に下向し、勢力を拡大した。しかし、奥州からの撤退を余儀な

くされた吉良治家は足利將軍家の「御一家」として鎌倉公方に仕えることとなった。この吉良氏は、世田谷と蒔田（現横浜市）にその本拠を置いたので、世田谷御所あるいは蒔田殿と称せられるようになった。吉良氏が世田谷城を構築した時期については全く不明であるが、治家の鎌倉鶴岡八幡宮にあてた寄進状から、永和2年（1376）の段階で、既に吉良氏の領地が世田谷郷内にあったことが分かっている。

北条氏と吉良氏

北条早雲が小田原に城を構えて以来、関八州に絶大な勢力を誇っていた戦国大名北条氏は世田谷吉良氏が將軍家足利氏の一族であることを重視し、これを滅ぼすことなく平和的に懐柔しようと考えた。北条家2代当主・氏綱は、その娘を吉良頼康の夫人とした。また、吉良氏朝の元にも、前代に続き、北条家の娘（鶴松院）が嫁いでいる。

世田谷新宿と楽市（ボロ市）のはじまり

北条氏は領土の拡張に伴って、要所要所に支城を配置し、その領国体制を固めていった。その中でも、特に重要な拠点であった江戸と小机（現横浜市）を結ぶ位置にある吉良氏の本拠地・世田谷は、北条氏の注目することとなったのであろう。北条氏4代の当主・氏政は天正6年（1578）、世田谷に新たに宿場（世田谷新宿）を設けるとともに、ここに楽市を開き、矢倉沢往還の整備に努めた。その目的は、軍事・政治上必要な伝馬の確保にあり、宿場の繁栄が必要不可欠であった。こうして、世田谷の楽市が開かれたのである。この時北条氏によって開かれた楽市は、その形を変えながら、今もボロ市として存続している。

家康の関東入国

天正18年（1590）、豊臣秀吉と敵対していた北条氏が滅ぼされると、北条氏と強いつながりをもっていた世田谷城主・吉良氏朝は、下総国生実（現千葉県）に隠棲した。また、当時、吉良・北条両家に仕えていた江戸氏の末裔・江戸勝重（後、勝忠）も、秀吉の軍勢と戦ったが、小田原落城

の後、喜多見に潜伏することとなった。

一方、北条氏に代わって関東に入国した徳川家康は戦役の後、関東各地に潜居していた旧家・名族の者たちを家臣に取り立て、その優遇策を図った。吉良氏朝の子・頼久は、天正19年(1591)、上総国長柄郡寺崎村に1,125石の領地を与えられ、江戸勝重も、文禄元年(1592)頃に、旧領・喜多見村500石を安堵されている。家康の家臣となった頼久は吉良姓を名乗ることをやめ、蒔田と改姓したが、その曾孫義俊の時、吉良姓に復した。また、江戸勝重も、家康の新しい居城の地・江戸をその姓とすることをはばかって喜多見と改姓した。その後、喜多見氏は代々江戸幕府の要職に就き、ついには2万石の大名となったが、元禄2年(1689)、一族の刃傷事件に連座して御家断絶となっている。

近世の村落支配

家康が関東に入国すると、世田谷のほとんどの村がその直轄領となり、代官・松風助右衛門の支配下に置かれた。私領としては、喜多見氏・藤川氏らの旗本7人が、喜多見村・深沢村・経堂在家村など都合9か村に給地を与えられたに過ぎなかった。

寛永年間(1624-1643)に入ると、大幅な領主替えが行われ、幕府領15か村(後、20か村)が井伊家の江戸屋敷賄料として彦根藩領に組み込まれたのをはじめ、14か村が旗本領に、1か村が増上寺領に変わった。その間、村々においては新田畑の開墾が進み、飛躍的に生産力が増した。元禄8年(1695)には、増大した生産高を把握するために検地が施行され、村高(公定生産高)が確定した。元禄期は近世村落の支配体制が完成した時期であり、この時確定した村高は明治維新まで変更されることはなかった。

幕末の動乱と世田谷

安政5年(1858)、大老職に就任した井伊直弼は日米修好通商条約の調印を断行し、将軍継嗣問題に決着をつけた。さらに直弼は、反対派の一掃を謀って「安政の大獄」を強行したが、安政7年(1860)3月3日、激高した水戸浪

士らが、江戸城桜田門外において直弼を暗殺した(桜田門外の変)。領主・井伊直弼の暗殺事件は、世田谷領20か村の人々をも震撼させる一大事件であった。

安政6年(1859)に貿易が開始され、外国使臣や貿易商が続々来日すると、攘夷思想を持った者たちによる外国人殺傷事件が頻発した。中でも文久2年(1862)に起きた生麦事件は、大きな波紋を投げかけた。賠償金を要求してイギリス艦隊が横浜港で示威行動を起こすと、たちまち、その噂が江戸市中に流れ、動揺した人々は親戚縁者を頼って家財道具の疎開を始めることとなった。当時江戸郊外の農村地帯であった世田谷は格好の疎開先となった。押し寄せる時代の波は、農村地帯・世田谷をものみ込んでいったのである。

明治期における区域の沿革

明治2年(1869)の東京府の開設、そして明治4年(1871)の廃藩置県断行など、維新改革が行われた明治の初めには、世田谷は品川県や彦根県(旧井伊領、後に一時長浜県とも呼ばれる)に分かれたり、また東京府や神奈川県に分かれるなど目まぐるしく所属や区域が変わった。明治11年には東京府に市街地の15区と周辺の6郡が置かれ、世田谷の中東部は荏原郡に、千歳・砧地区の村々は神奈川県北多摩郡に属した。さらに東京市の誕生した明治22年(1889)には、町村制の施行により東京府の4か村(世田谷・駒沢・松沢・玉川)と神奈川県の2か村(千歳・砧)が誕生し、明治26年(1893)には、神奈川県に属していた三多摩郡が東京府に移管された。

また、明治40年(1907)には区内最初の電車、玉川電車が開通した。

昭和7年、世田谷区誕生

大正から昭和初期には京王線・小田急線・大井町線・井の頭線などが開通した。大正12年(1923)9月、関東大震災が発生すると被害を受けた下町の人々は地価が安く交通の便のよい近郊へ移住し、世田谷も急激に人口が増え、電車の沿線は住宅地に変貌していった。都心で被災した寺が、この年から昭和期にかけて、

烏山に26か寺も移転し、寺町を形成している。このころ、玉川村全域で住民の手により大規模な耕地整理が行われているが、住宅化への先取り事業として特記すべきことである。

昭和7年10月1日東京市の区域が拡張され、世田谷も東京市に所属し、世田谷町・駒沢町・玉川村・松沢村の2町2村で「世田谷区」が成立誕生した。さらに、昭和11年10月には北多摩郡であった千歳・砧村の2村が世田谷区に編入され、現在の大きさとなった（この時の人口は21万701人）。

第2次大戦の終わりごろ、世田谷も空襲に遭い被害を受けた。しかし、空襲による損失が比較的少なかったため、戦後から昭和40年代にかけて人口が急増した。

現在90万区民の住む住宅都市となった世田谷。開発が進む中、緑化の推進や環境保全など、潤いのあるまちづくりに取り組んでいる。

年表

年代	時代区分	年	出来事
BC	先土器		
35000			瀬田、下山、嘉留多遺跡
10000			瀬田貝塚
5000	縄文		
1000			大蔵、諏訪山、桜木遺跡
500			
0	弥生		
100			円乗院遺跡
200			
300	古墳		
500			野毛大塚古墳、砧中7号墳
700			喜多見稲荷塚古墳
			横穴墓がつくられるようになる
	奈良		
800			火葬墓がつくられるようになる
1000	平安		
1100		1180	頼朝の挙兵に江戸太郎重長従う
1200	鎌倉		13世紀後半木田見氏と熊谷氏、木田見の地を争う
1300			
	室町		
		1376	吉良治家、鶴岡八幡宮へ上弦巻半分を寄進する
1400			14世紀後半吉良氏世田谷に移り住む
1500		1551	吉良頼康、大平清九郎に世田谷郷等々力村・小山郷を給与する

	室町	1553	吉良頼康、旋沢のうち船橋谷等を大平清九郎に給与する
		1557	吉良頼康、大平清九郎に大蔵村を給与する
	戦国	1578	北条氏政、世田谷新宿に楽市（ポロ市のはじめ）を定める
		1585	吉良氏朝、周防上野介に若林を所領として与える
		1590	豊臣秀吉、世田谷郷12か村に禁制を出す
		1590	徳川家康、江戸に入部し、世田谷は直轄領・旗本知行地となる
		1591	徳川氏による検地が行われる
		1592	吉良氏の旧臣関加賀守・大場越後守、勝国寺薬師如来を修復する
1600		1611	六郷用水完成する
		1633	世田谷領15か村が彦根井伊領となる 大場氏が代官に起用される
		1646	井伊領に検地が行われる
		1651	宇奈根・横根・太子堂・馬引沢4か村が井伊領となる
		1653	玉川上水開削
		1658	北沢用水ができる
		1659	烏山用水ができる
		1669	品川用水ができる
		1689	喜多見家（2万石）断絶
		1690	石井兼重、大蔵村に家塾を開き玉川文庫を公開する
		1695	元禄検地が行われる（1701年まで）
1700		1707	富士山噴火の降灰
		1716	世田谷、幕府の鷹場となる
		1725	三田用水ができる
		1742	多摩川洪水
		1757	多摩川洪水
		1766	多摩川洪水
		1783	浅間山噴火・天明の大飢饉始まる 多摩川洪水
1800		1805	関東取締出役でき、御料私領の別なく取り締まる
		1819	猪方村手習師範平井有ら三多摩川に歌舞伎を催し関東取締役の処罰を受ける
		1827	治安強化のため改革組合村ができる
		1853	ペリー来航で人馬の準備をする
		1855	安政大地震で玉川筋諸村の被害を調査する
		1858	井伊直弼大老に就任、日米修好通商条約に調印
		1859	安政の大獄。吉田松陰処刑され、後に若林村に埋葬される
		1860	桜田門外で世田谷領主井伊直弼倒れ、豪徳寺に葬られる
		1867	駒場原フランス調練伝習場設置反対の一揆が世田谷に及ぶ
		1868	新政権樹立
		1869	版籍奉還により品川県と彦根県（長浜県）が置かれ、世田谷の村々はこの両県に属する
	明治	1871	太子堂村に郷学所ができる
		1889	町村制施行により東京府荏原郡世田谷村、松沢村、駒沢村、玉川村、神奈川県北多摩郡千歳村、砧村の6か村が新たに編成される

1900	明治	1891	騎兵第1大隊、駒場・池尻に移駐
		1893	千歳村・砧村、神奈川県から東京府に編入
1897		駒沢練兵場設置	
1907		玉川線渋谷～二子玉川間開通	
1908		東京府立園芸学校が駒沢村にできる	
大正	1915	京王線が新宿～調布間開通	
	1919	巣鴨病院が上北沢に移り松沢病院に	
	1922	世田谷警察署が独立。世田谷初めての警察署となる	
	1923	世田谷村は町制を敷き世田谷町に目蒲線が開通	
	1925	駒沢村は町制を敷き駒沢町となる	
	1927	小田急線、東横線、大井町線が開通	
	昭和	1932	世田谷町・駒沢町・玉川村・松沢村を合併し世田谷区生まれる
1933		世田谷消防署ができる	
1936		北多摩郡千歳村・砧村世田谷区編入	
1944		世田谷の学童疎開始まる	
1945		5月 区役所本庁舎、空襲により全焼	
1947		5月 日本国憲法、地方自治法施行、区は特別区となる	
1952		8月 地方自治法改正、区長の公選制が廃止され、選任制となる	
1956		10月 区の紋章制定	
1964		9月 郷土資料館開館	
		10月 第18回オリンピック東京大会、駒沢オリンピック公園と馬事公苑が会場となる	
1968		9月 区の鳥「オナガ」、花「サギソウ」、樹「ケヤキ」を制定	
1970		10月 カナダ・ウィニペグ市と姉妹都市提携の調印	
1971		3月 健康都市宣言	
1974		4月 地方自治法改正、区長公選など特別区の自治権が拡充	
1975		4月 24年ぶりに区長選挙行われる	
1976		7月 基本構想審議会条例可決	
1977		4月 新玉川線開通	
1978		6月 基本構想可決	
1979		2月 防災地域活動推進協議会が発足	
		10月 地域行政推進本部を設置	
1981		8月 「世田谷区の歌」「せたがやの応援歌」発表	
		11月 群馬県川場村と「健康村相互協力協定」調印	
1982		2月 多摩川にサケの稚魚放流	
	10月 区制50周年記念、ミニSL開通、タイムカプセル敷設される		
1984	11月 世田谷電話局ケーブル火災発生		
1985	5月 オーストラリア・ウィーン市ドゥブリング区と姉妹都市提携の調印		
	8月 平和都市宣言		
	10月 テレビ広報「風は世田谷」放映開始		
1986	3月 世田谷美術館開館		
	4月 区民健康村が群馬県川場村に開村		
	7月 第1回多摩川サミット		
	10月 多摩川・ドナウ川友好河川共同宣言		

1987	平成	3月	新基本計画策定
		1988	7月 教育会館（現・教育センター）開館
1989		4月	一部施設を除き、第2・4土曜が閉庁日となる
		4月	総合福祉センターオープン
1990		4月	住宅条例制定
1991		4月	「地域行政」スタート、5 総合支所がオープン
1992		11月	オーストラリア・バンバリー市と姉妹都市提携の調印
1993		7月	向井潤吉アトリエ館開館
1994		2月	区民農園条例制定
		4月	交通安全都市宣言
		9月	基本構想可決
		9月	環境基本条例制定
1995		3月	基本計画策定
		4月	世田谷文学館開館
		4月	初の区立特別養護老人ホーム「芦花ホーム」オープン
		8月	せたがや平和資料室オープン
		11月	リサイクル条例制定
		11月	福祉のいえ・まち推進条例制定
1996		3月	地域保健福祉推進条例制定
		3月	環境基本計画策定
		6月	区民斎場「みどり会館」開館
		7月	「病原性大腸菌O157 対策本部」設置
		8月	24時間巡回型ホームヘルプサービスが砧地域でスタート
		10月	保健福祉サービス苦情審査会発足
		11月	三軒茶屋再開発ビル「キャロットタワー」オープン
		12月	事業系ごみの収集が有料化
1997		3月	深沢環境共生住宅完成
		4月	5地域に保健福祉センターオープン
		4月	世田谷文化生活情報センターオープン
		9月	区長等による街頭区政相談実施
		10月	世田谷区制施行65周年、特別区制施行50周年
		10月	公共施設利用案内システム「けやきネット」稼働
		10月	ポイ捨て防止等に関する条例制定
1998		7月	エフエム世田谷、放送開始
2000		2月	新しい資源分別回収システムがスタート
		3月	基本計画（調整計画）策定
		4月	風景づくり条例制定
		4月	特別区制度改革が実現
		4月	清掃事業が区に移管される
		4月	介護保険制度スタート
2001		11月	ISO14001 認証取得
		12月	子ども条例制定
2002		6月	安全安心まちづくり条例制定
2004		10月	世田谷ものづくり学校開校
		12月	「日本語」教育特区認定
2005		3月	国分寺崖線保全整備条例
		4月	基本計画実施（2005～14）
		8月	21世紀せたがやのうた「おーいせたがや」発表

平成	2006	3月	災害対策条例制定
		3月	子ども・子育て総合センター開設
		4月	文化および芸術の振興に関する条例制定
		4月	健康づくり推進条例制定
	2007	3月	出張所窓口の土曜開庁（5か所）開始
		10月	区制施行75周年記念事業実施
	2008	3月	産業ビジョンおよび産業振興計画策定
		3月	彦根藩主井伊家墓所の国史跡指定
		4月	地域の絆再生支援事業実施
		4月	長寿医療制度（後期高齢者医療制度）実施
		7月	就労支援総合窓口「おしごと相談コーナー」開設
	2009	4月	「新型インフルエンザ対策本部」設置
		5月	砧総合支所新庁舎・成城ホール開設
		10月	「まちづくり出張所」を「まちづくりセンター」に名称変更
	2010	1月	大蔵第二運動場の開設
		4月	せたがやジュニアオーケストラ発足
		5月	教育センタープラネタリウムリニューアルオープン
		8月	世田谷区平和都市宣言25周年記念事業実施
	2011	3月	東北地方太平洋沖地震発生
		10月	レンタサイクルポートにネーミングライツ導入
		12月	世田谷区基本構想審議会発足
	2012	3月	世田谷美術館リニューアルオープン
		4月	世田谷区民自転車利用憲章制定
		7月	スポーツ祭東京2013（テニス・ソフトテニス）リハーサル大会実施
		10月	世田谷区制80周年
		12月	喜多見複合施設オープン
2013	3月	池尻複合施設オープン	
	4月	せたがや がやがや館オープン 二子玉川公園オープン 世田谷区基本構想答申 太子堂複合施設オープン	
	5月	太子堂出張所移転	
	5月	スポーツ祭東京 2013 第13回全国障害者スポーツ大会（卓球・サウンドテーブルテニス フライングディスク）リハーサル大会実施	
	7月	「せたがやホット子どもサポート」相談開始	
	8月	「世田谷ナンバー」導入決定	
	9月	世田谷区基本構想議決	
	9月	スポーツ祭東京2013 第68回国民体育大会（テニス、ソフトテニス）	
	10月	第13回全国障害者スポーツ大会（卓球・サウンドテーブルテニス フライングディスク）開催	
	10月	三茶おしごとカフェ（三軒茶屋 就労支援センター）オープン	

平成	2014	3月	世田谷区みうら太陽光発電所開設
		4月	基本計画実施（2014～2023） ぶらっとホーム世田谷開設 二子玉川公園追加開園
		9月	世田谷若者総合支援センターオープン
		11月	「世田谷ナンバー」スタート
	2015	1月	下馬複合施設オープン
		3月	子ども・子育て応援都市宣言 発達障害者就労支援センター「ゆに（UNI）」オープン
		4月	がん対策推進条例施行 図書館カウンター二子玉川オープン
		7月	若者の身近な居場所「あいりす」「たからばこ」オープン 平和都市宣言30周年記念事業（平和映画祭）実施
		8月	平和資料館オープン
		10月	図書館カウンター三軒茶屋オープン
		11月	パートナーシップ宣誓の取組み開始 福祉ショップ「フェリーチェ」オープン
	2016	2月	住民票等証明書のコンビニ交付開始
		3月	児童養護施設退所者等奨学基金創設
		4月	空家等の対策の維持に関する条例施行 住居等の適正な管理による良好な生活環境の保全に関する条例施行
		6月	アメリカ合衆国のホストタウンに登録
		7月	福祉の相談窓口・まちづくりセンターの区内全27地区への設置 世田谷版ネウボラ開始
		8月	野毛大塚古墳出土品（293点）、国の重要文化財指定
		9月	世田谷図書館ランドオープン（世田谷合同庁舎内）
	2017	12月	川場村産電気購入者募集開始
		1月	上馬複合施設オープン
		3月	「SETAGAYA Free Wi-Fi」サービス開始
		4月	世田谷区スポーツ推進基金の創設 世田谷区官民連携指針の開始
		7月	5つの総合支所に「くみん窓口」を開設
		10月	世田谷区制85周年 人口90万人突破
		11月	マイナンバー制度による情報連携の本格運用開始
	2018	12月	共生社会ホストタウンへの登録 移動式水素ステーションの開設
	3月	住宅宿泊事業の適正な運営に関する条例（民泊条例）、多様性を認め合い男女共同参画と多文化共生を推進する条例公布	
	5月	青森県弘前市と太陽光発電に関する協定締結	
	10月	「世田谷区たばこルール」スタート 教育センターに多文化体験コーナー「Touch the World」一般公開開始	
2019	2月	希望丘複合施設オープン	
	3月	九品仏複合施設オープン 三軒茶屋観光案内所「SANCHA ³ 」 がオープン	
	4月	マイナンバーカード申請専用窓口を開設 まもりやまテラスオープン	
	6月	東京2020大会400日前イベント 映画「東京オリンピック」上映会	

令和

令和	2019	7月	二子玉川複合施設オープン 東京2020オリンピック・パラリンピック1年前イベント in SETAGAYA～夏まつり2019～
		10月	先導的共生社会ホストタウンに認定
		11月	総合運動場陸上競技場リニューアルオープン
	2020	1月	梅丘複合施設オープン
		4月	児童相談所の開設 総合的な保険・医療・福祉の拠点となる「うめとびあ」本格稼働
		6月	世田谷国際交流センターオープン
		10月	世田谷区認知症とともに生きる希望条例施行 世田谷区気候非常事態宣言
		11月	若林複合施設オープン 図書館の電子書籍サービス開始
		1月	玉川総合支所新庁舎・玉川区民会館開設